

(様式2)



平成29年 2月27日

京丹後市議会議長 様

会派名 無会派

代表者氏名 松本 聖司

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程  
平成28年11月24日(木)、25日(金)
- 2 場所
  - ・防衛省 東京都新宿区市谷本村町 5-1
  - ・衆議院第一議員会館 東京都千代田区永田町 2-2-1
  - ・アットビジネスセンター東京駅八重洲通り  
東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通りハタビル
- 3 目的
  - ・米軍基地再編交付金制度の恒久化等に対する要請・陳情活動を行うため。
  - ・山陰近畿自動車道整備推進東京大会に出席し、山陰近畿自動車道路の早期全線開通に向けた要請・陳情活動を行うため。
  - ・議員力向上講座としての「歳出のポイント」を受講研修し、来年度の予算審査の充実に活かすため。
- 4 該当する政務活動費の用途項目  
要請・陳情費及び研修費
- 5 支出経費の内訳と金額

セミナー受講料	15,000 円
交通費	33,770 円
宿泊費	9,800 円
計	58,570 円
- 6 参加議員名  
松本聖司 (1名)

7 調査研究成果の概要、所見

山陰近畿自動車道整備推進東京大会等の報告書・・・・・・・・資料1

8 成果物、資料等

・米軍TPY-2レーダー施設設置等に伴う市民の

安心・安全の確保に向けての財源措置等に向けての要望書・・・・・・・・資料2

・自治体財政 歳出のポイント・・・・・・・・資料3

・山陰近畿自動車道早期整備に関する要望書・・・・・・・・資料4

(丹後・地域高規格道路推進協議会)

平成29年2月27日

## 1. 防衛省要請・陳情活動

### 1. 訪問日時

平成28年11月24日（木）13:30～14:20

### 2. 訪問先

防衛省地方協力局 局長 深山延暁氏

防衛省地方協力局施設管理課 課長 榎賀政浩氏

### 3. 要請・陳情活動内容

松本経一議長、私（松本聖司）を含めた11名の市議会議員及び議会事務局長で、防衛省地方協力局長の深山延暁氏を訪問し、冒頭、議長より「米軍TPY-2レーダー施設設置等に伴う市民の安心・安全の確保に向けての財源措置等についての要望書」（資料提出）を局長に直接渡した。その後、短時間であるが懇談の時間を取っていただいた。議長からは要望内容の趣旨説明があり、各議員からは質疑及び意見表明なされていた。私からは、定例議会ごとに「米軍Xバンドレーダー基地問題に関わる陳情書」提出されるような状況、米軍関係者と市民との自動車事故等もあり、市民においては大変関心や問題意識の高い現状にあり、再編交付金等の支援が引き続き必要との認識を表明した。あわせて、米軍基地内における問題として、地元住民の信仰の対象となっている穴文殊の上の位置に米軍の仮設トイレがあることに対し、善処してほしいとの声を多く聞いていると申し上げた。深山局長からは、私からも直接米軍関係者にトイレの件は直接申し上げるとのことでした。

その後、議長以下全員で施設管理課長の榎賀政浩氏を訪問し短時間ではあるが訪問の趣旨等をお伝えしたところである。私の方からは、民生安定事業補助金を活用して宇川地区農業施設改修事業を実施させていただいているが、より広い地域、多角的な事業に民生安定事業補助金の活用、ノウハウについて指導助言をお願いしたところです。榎賀課長からは、全国での民生安定事業の事例集（防衛省における基地周辺市町村の6次産業化への取組H27.11.2）をいただくとともに、京丹後市への今以上の指導助言についても快諾してもらいました。

### 4. 所見

初めて市ヶ谷の防衛省を訪ねたところです。短時間とはいえ、京丹後市議会議員有志として直接、米軍Xバンドレーダー基地に係る再編交付金等の財政措置の継続の要請陳情

の活動として訪問対話をしたことは大いに意義があったと感じている。地域の思いや現状を中央官庁に伝えるすべにおいて多くの議員が直接自分の声で相手に話げできたことに手ごたえを感じている。

政務活動については、自治法の改正において政務調査から政務活動に名称変更して、要請陳情活動を議会議員として積極的に支援するための制度として、公費支援ができるようになった経緯がある。東京から時間的な遠隔地として京丹後は存在しているが、改めて積極的な要請陳情活動の意義を肌で感じたところです。

## II. 山陰近畿自動車道整備促進決起大会

### 1. 開催日時

平成28年11月24日(木) 15:00~16:00

### 2. 開催場所

衆議院第1議員会館 多目的ホール(東京都千代田区永田町)

### 3. 参加者 約220名 (以下おもな出席者)

- ・山陰近畿自動車道整備促進協議会  
山田京都府知事、井戸兵庫県知事、平井鳥取県知事
- ・山陰近畿自動車道整備促進議員連盟  
石破衆議院議員、田中衆議院議員、西田参議院議員、中野衆議院議員、山田衆議院議員、谷衆議院議員、舞立参議院議員、伊藤参議院議員、青木参議院議員、足立参議院議員
- ・国土交通省  
末松副大臣、藤井政務官、石川道路局長、池田近畿地方整備局長、瀬良中国地方整備局長
- ・沿線市町長  
三崎京丹後市長、中貝豊岡市長、広瀬養父市長、岡本新温泉町長、浜上香美町長、榎本岩美町長

### 4. 大会概要(主な発言者要旨)

三府県知事

◎山田京都府知事

日本海側の国土軸なくしては、国の将来の構図は描けない。10月30日に野田川大宮道路が開通し、交通量も増加して地域の未来を開く可能性が示されている。網野~兵庫県境はいまだに白紙状態であり、早く調査をしていただき山陰近畿自動車道が姿を現せるようお願いしたい。

◎井戸兵庫県知事

浜坂道路の平成 29 年に開通のめどが立った。北近畿豊岡道路との接続以西の京都府との県境については直轄代行でお願いしたい。山陰近畿道は「命の道」、「観光の道」、「危機管理の道」。整備をしっかりと進め、環日本海時代を迎えていきたい。

◎平井鳥取県知事

10 月 21 日に鳥取県中部地震があり、各方面からの支援に感謝する。この時のルートになるのが高速道路である。観光についても山陰海岸ジオパークが、将来天橋立ともつながれば周遊性が高まる。また、但馬地域から鳥取中央病院に救急患者が運ばれており、命に係わる道でもある。

国会議員

◎石破衆議院議員

人口が急減しているが、出生率の高い山陰から一番低い東京に人が移っている。この流れを止めないと国がなくなってしまう。地元のためだけでなく、日本のためであり一刻を争う問題である。

◎西田参議院議員

財務省はプライマリーバランスを 2020 年までに黒字化すると言っているが、赤字国債と建設国債を同列に扱うことはおかしい。方針を変えさせないと、新幹線も道路も作れないことになってしまう。

国土交通省

◎末松国土交通副大臣

山陰近畿自動車道の開通及び事業中で約 50%の進捗である。もう一踏ん張り、二踏ん張りであり、調査すべきところは調査をし、3 府県で連携し事業推進に頑張っていきたい。

◎藤井国土交通大臣政務官

末松副大臣が言っておられたように、日本海側の大切さについては、会場の皆さんが一番ご存知だと思う。

◎石川道路局長

山陰近畿道路、120 キロメートルの約 7 割が調査中及び事業中である末松副大臣、藤井政務官の指導をいただきながら 3 府県と力を合わせて進めていきたい。

地元関係者

◎京丹後市長

昨年 7 月に京都縦貫道の全線開通、この 10 月に野田川大宮道路が開通し来訪者に京丹後市が近くなったことを実感してもらっている。また、6 月には京都北部の観光にと「海の京都 DMO」を設立していただいた。今後は、産業振興、地方創生の推進にと大宮峰山走路、空白地帯の解消のため一生懸命頑張っていきたい。

◎丹後海陸交通（株）角取締役バス事業部長

弊社は丹後地域を営業エリアとした交通事業者である。京都縦貫道の全線開通により、利用者から「早く行けてありがたい」、運転手からは「疲れなく安全運転できる」と聞い

ている。高速道路が延びていくことで、地域が輝いていけるのではと期待している。

## 5. 所見

今年の山陰近畿自動車道整備推進決起大は、参議院兵庫選出の末松国土交通副大臣、衆議院兵庫 4 区選出の藤井国土交通大臣政務官の両国会議員が、国土交通省の役職につかれ、日本海側の国土軸の重要性、必要性を大いに宣揚できることに大変心強く感じたところである。

10月30日に野田川大宮道路が開通し、高速道路ネットワークの恩恵を実感できている。京阪神地域への移動の時間短縮はもとより、他地域からの交流人口の拡大は市民に夢と希望を抱かせており、改めて社会インフラとしての高速自動車道路の必要性を実感している。平成29年度には、浜坂道路の開通が見込まれており、全線開通に向けて、網野から兵庫県境までの約19kmの調査区間格上げと事業区間以西の峰山から佐津ICまでの約46.6kmの見通しをどのように示していけるかが最大の課題である。

井戸兵庫県知事から山陰近畿自動車道は、「命の道」、「観光の道」、「危機管理の道」との話もあったが、この120キロメートルの道路の完成が新たな人の流れを作ることは確実であり、地方創生、人口減少へ歯止めをかける希望の道である。地元の熱意と行動が中央を動かす思いで陳情要請活動を推進していく決意である。なお平成29年度には地元京丹後市で山陰近畿自動車道の整備促進の決起大会を実施しとのこと、頑張りたい。

なお、決起大会において、丹後・地域高規格道路推進協議会から「山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）早期整備に関する要望書」他4通要望書を末松国土交通副大臣等に手渡したところである。



大会当日の京丹後市議会議員の参加風景

### Ⅲ. 議員力向上講座「自治体財政歳出のポイント」

#### 1. 開催日時

平成28年11月25日（金）10:00～12:30

#### 2. 開催場所

東京都中央区八丁堀1-9-8 八重洲通りハタビル

#### 3. 講師

自治体経営コンサルタント 元廿日市市副市長 川本達志氏

#### 4. 研修内容

歳出を見る視点として①自治体の政策と活動のすべて表されている（総予算主義）ので、何に重点的又は優先的に取り組んでいるかを知る。②性質別の歳出の傾向を知る。他団体との比較により、その自治体の歳出傾向が分かる。そこに課題が潜んでいる。③経常的収支の内訳を知る。改革のターゲットになる。④公債費の現状と要因を知る。公債費は過去の投資の結果。将来予測できる。⑤人件費の現状と将来を知る。人件費は、定員と給与水準で決まる。⑥物件費の主な内容を知る。物件費は拡大傾向。公の施設などの縮小三藤氏が必要な時代への6点を大切にしてほしいとのこと。

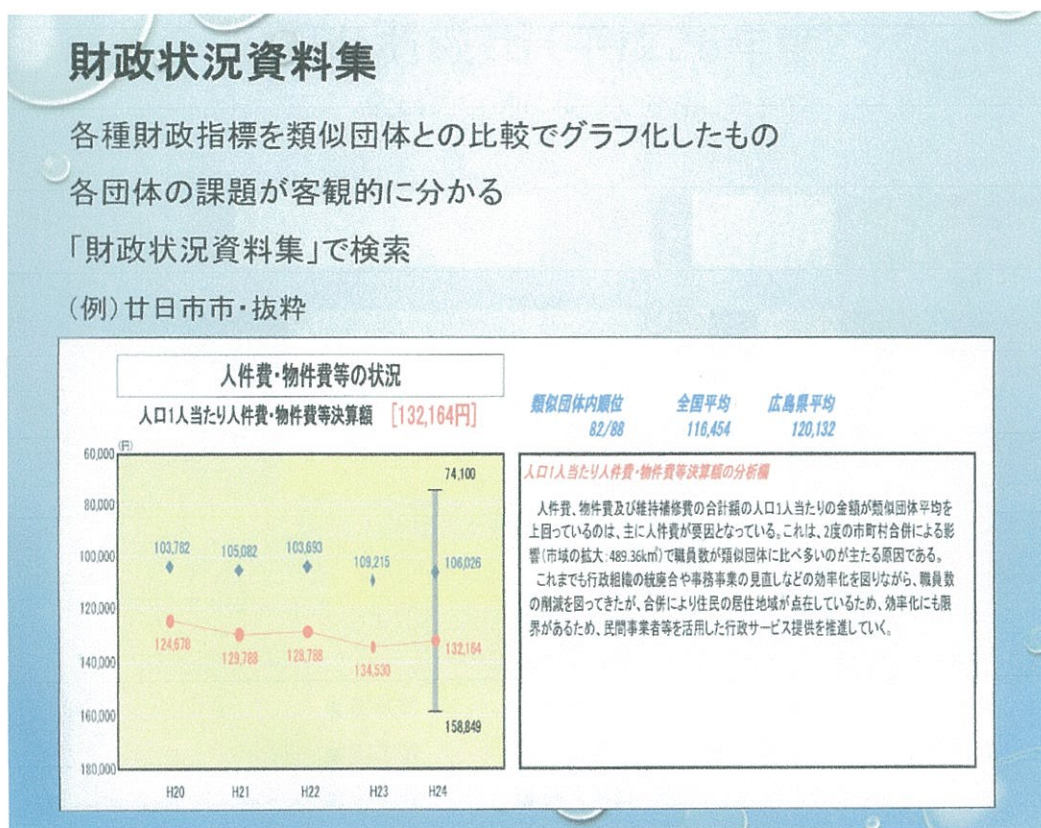
自治体財政を客観的に見るための資料として決算カードの活用を求めている。決算カードについては、過去から現在への推移・変動をみる。特異な変化をしているものに注目、原因を読み解く。また、類似団体と比較をしてみることも大変有効である。総務省のホームページについては1年遅れのものしか出てこないが、産業構造及び人口規模が近ければ、他市の状況も一定予測できるものである。その上で自分が所属している自治体の決算カードを通して実践的な活用方法を学んだところです。



また、各種財政指標を類似団体との比較でグラフ化したもので、各自治体の課題が客観的にわかる「財政状況資料集」も有効である。総務省のホームページから検索できるが、各自治体の多くのデータが入っている。例えば、人件費・物件費の状況について、人口1人当たりの決算額も出ているし、類似団体内の順位、全国平均や京都府内の平均も出ているし、一定の分析も文章でされている。見本として、研修資料（※資料2）を添付する。その他にも、財政力、財政構造の弾力性、将来負担の状況、公債費負担の状況、定員管理の状況、給与水準の比較表も1ページの中に納まっている。

研修の後半は、目的別歳出、性質別歳出について各費目別に内容を深めた。複数の自治体を比較する大切さ、その上で違いを可視化するために表にして比べていくことが重要な手法である。その中で、人件費、扶助費、公債費、物件費、普通建設事業費、補助費、繰出金の分析やポイントを一定自分のものとできた。また、財政指標についても自分で数字を計算式に当てはめてみると、今までの理解では不足して計算ができない。また、新たな疑問が出てくるなど、力不足を実感している。一方で苦戦しながらでも自分で確実に数字を拾って計算して数字を導き出す訓練は、言葉で人に説明するうえでも大いに自信になった。

紙面の都合でここに※資料1の市町村財政比較分析表の一部を添付する。





## 5. 所 見

今回の歳出のポイントの研修を終えて特に感じる事として、決算審査における審査技量が不足していることを痛切に感じている。平成 16 年の京丹後市誕生から 13 年を終えようとしており、13 回も決算審査に臨んできている。決算カード、財政状況資料集も議員になってすぐから存在も知っていたし、一定活用もしてきたと自負しているが、有効な資料として決算以外の時、例えば一般質問や予算審査等でもっと活用できたのではと感じている。また、各種用語の意味やポイントの捉え方、数字の分析手法等についても不足していたと感じている。

議員研修に来るたびに思うことだが、日々の議員活動の中で、自分を律し、その中で勉強し自身の資質の向上につなげ議員力のアップにつなげていきたいと決意する研修であった。